

学びの成果を生かす地域活動の好事例を紹介します

県では、学びの成果を社会に生かす取組を推進しています。その一環として、学びを地域の課題解決に生かしたり、ボランティア、NPO 活動等につなげている取組について、御紹介します。

今回は、東近江市能登川博物館で、小学生に「昔の暮らし」について、学びのサポートをされている民具体験サポーターさんの活躍取材しましたので紹介します。

当日は、授業の一環として、地元の小学校3年生の児童が能登川博物館を訪れていました。博物館に展示されている明治・大正時代の暮らしのコーナー、昭和40年代の暮らしのコーナーで、子ども達は、昔の暮らしの道具や生活の様子を民具体験サポーターさんと博物館職員の方からお話を聞き、熱心に学ぶ姿が見られました。また、「ふろしき」の体験学習では、ふろしきのいろいろな使い方やひもを使った結び方を体験していました。



民具体験サポーターさんは、養成講座を受講され、東近江市の小学生だけでなく、近隣市町の小学生にも「昔の暮らし」について、自分たちの経験や知恵を語られています。時には、学校に出向いて、出前授業もされています。

6人の民具体験サポーターの方にお話を聞きました。

■民具体験サポーターをしようと思ったきっかけは何ですか。

- ・博物館の方から民具体験サポーターの募集があり、家にいるのではなく、子どもたちとふれあうことで、自分自身も元気になると思ったからです。
- ・民具体験サポーターをしている友達から誘いをうけて、始めようと思いました。9月～10月は、近隣市町の小学生、1月～3月は東近江市の小学生にお話をしていますが、とても楽しみにしています。
- ・もともと博物館に展示している民具の貸出を担当していました。福祉の観点から、民具などを活用しながら高齢者の方の遠い記憶を呼びおこし、当時の思い出や社会情勢について語り合う回想法を行っていました。回想法とは、心理療法の一つで、昔のことを思い出して語ることで、認知症予防や抑制につながるとされています。民具の貸出や相談をしていたことがきっかけで、今は、小学生に民具体験サポーターとして携わっています。

民具体験サポーターさんの活躍の様子



【明治・大正時代の展示】

- ・いろり、火鉢、回転式あなか、羽釜、箱膳、火吹き竹、洗濯板など今では珍しい生活の道具の紹介と実際にどのように使っていたのか説明されていました。



【昭和40年代の展示】

- ・ブラウン管テレビ、おもちゃ、今より小さなランドセルと教科書、ミシン、洗濯機などを見せながら、家庭での生活の様子を話されていました。



【ふろしき体験】

- ・ふろしきを使った弁当包みやティッシュ箱包み、ひもを使った真結びなど子どもたちと一緒にされていました。
- ・民具体験サポーターさんの家に残されていた大きなふろしきを見せながら、唐草模様は、命のつながり、繁栄、長寿などの意味があることなど体験活動にまじえて紹介されていました。

■民具体験サポーターとしての喜びや難しさなどを教えてください。

- ・昔の民具や生活用品を紹介した時の子どもの反応が楽しみです。子どもたちのつづやきの中で「見たことない。」「これ何かな。」などのつづやきがあります。このつづやきを拾い上げ、話を広げてしていくことで、私たちの話に興味をもってもらうことができます。小さな子どもさん達が、生き生きと学ぶ姿に喜びを感じています。
- ・私たちは、民具体験サポーターとしてお話をさせていただいていますが、子どもたちに「教えている」という感覚は持っていません。「一緒に楽しく学んでいる」という感覚で接しています。子どもたちに話をする中で、自分自身の勉強にもつながり、新しい発見もあります。
- ・3年生の社会科で「昔の暮らし」の学習をしていますが、ここで学んだことが、道徳や国語などの授業でも生かされているようで、他の教科ともつながり、子どもたちの幅広い学びとなっていることをうれしく思っています。
- ・皆さんとボランティア活動に取り組むことで、健康で元気な生活がおくれているので感謝しています。
- ・民具体験サポーターをしていて難しいと思うことは、説明するときの言葉をやさしい言葉にすることです。例えば、「酸素」を「空気」という言葉に置き換えるなど工夫をしています。
- ・子どもたちの中には、時には集中力を欠く子もいます。そのような子どもに対して、いかに関心をもって話を聞いてもらうか、その時々で考えて対応しています。

■今後の活動について

私たちは、80歳代の先輩からいろいろ教えていただきました。教えていただいた日本の伝統や習慣、生活の知恵を次の世代に伝えていくのも大切な役割だと思っています。また、民具サポーターとしての見識を深めるために、先進地視察として、岐阜市歴史博物館を訪問し、みんなで研修に参加したこともあります。これからも自分たちが学んだことや、経験してきたことを、子どもたちや地域の方に伝えていきたいです。